



藤沢スポーツトリニティー

◎山本 航瑛 箭田川 椋大
山内 慎太郎 柏木 由香
光永 愛美 板垣 大輝(3年)

～目次～

1. カフェトークふじさわの様子
2. 参加者からの意見
3. 私たちからの提言

1. カフェトークふじさわの 様子

1. カフェトークふじさわの様子

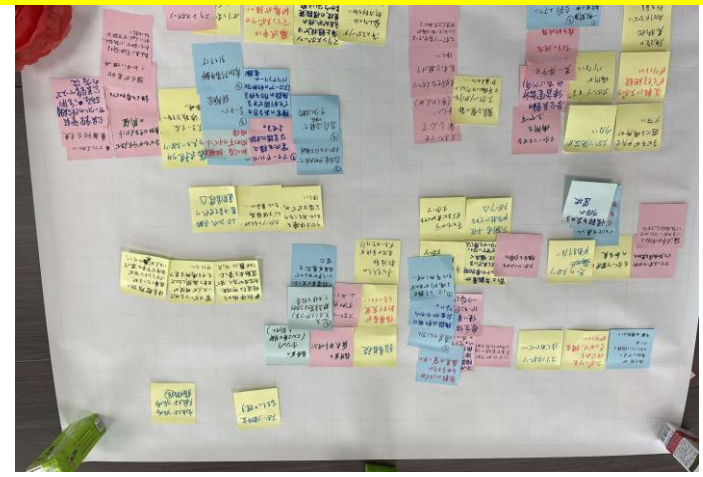


2. 参加者からの意見

2. 参加者からの意見



たくさんさんの意見が出ました！



2. 参加者からの意見

その中で私たちは

14項目

に類型化しました！

2. 参加者からの意見

物理的空間の不備

- 体育館にエアコンが欲しい
- スポーツをする場所の確保
- 障害者スポーツができる場が少ない
- 施設を整える
- 大きいスポーツできる場所の確保
- 若い人が自由に踊れる場所
- Bigイベントできる会場がない
- 周辺環境づくり
- 場所がない
- 練習場所があまりない印象
- 練習場所の確保
- スポーツの設備
- スポーツをする場・情報が少ない
- スポーツ施設が少ない
- 気軽にスポーツできる施設が少ない
- スポーツがする場所が少ない
- 施設の老朽化

機会の提供

- スポーツに触れる機会がない
- スポーツで人を呼ぶイベントまだまだ少ない
- 気軽、手ぶらで参加できるイベントがない
- みて楽しむスポーツが少ない
- スポーツが身近ではない
- みんなが楽しめるイベントを増やすべき
- どんなイベントが楽しめるか探る
- スポーツが苦手でも楽しめるスポーツが無い
- スポーツが苦手な人への対応
- 小さい頃からスポーツに触れる機会を作る
- ラジオ体操をもっと身近に
- 若者・高齢者・子育て世代の運動習慣△

ねんりんピックという存在

- 知名度が低い
- ねんりんピックあまり知られていない
- ねんりんピックの周知

2. 参加者からの意見

マリンスポーツの知名度の向上

- サーフィンやヨットの初心者に向けた講座がない
- マリンスポーツの知名度
- マリンスポーツの活性化
- サーフィンなど、地域を活かしたスポーツがあるのにも関わらず、実際にやっている人は少ない
- 藤沢市はマリンスポーツのイメージが強い
- マリンスポーツを始めるきっかけ・機会が少ない
- 海を利用するスポーツ
- 海のスポーツが盛んなのに部活動もない

マリンスポーツ以外の知名度の創造

- マリンスポーツ以外の認知度
- マリンスポーツ以外の周知があまりされていない印象
- 冬のスポーツがあまりない
- マリンスポーツ以外も！

施設の有効活用

- 学校のグラウンド、体育館が活用されていない
- グラウンド、体育館が抽選であること
- スポーツ施設の当日予約ができない

ハードルの高さ

- なんとなくハードルが高い(市民マラソンなど)
- 市民マラソンなどはハードルが高く、参加するのに勇気がいる
- ルールが分かりづらい
- ルールを分かりやすく
- マリンスポーツ始めにくい
- スポーツイベントの参加のしやすさ

2. 参加者からの意見

学校教育の不足

- 指導者不足
- 指導者があまり充実していない
- 子供の部活動においての先生の負担が大きい
- 文化部などからすると運動になじみがない
- 文化部だとスポーツに触れる機会が少ない
- スポーツと勉強を両立できているか
- 小中学生にスポーツのことを伝える
- スポーツについての知識
- スポーツの魅力を伝える

藤沢市のスポーツのアピールが弱い

- 藤沢市の有名なスポーツ
- 藤沢市民のみのできる大きいスポーツ

スポーツ都市の効果

- スポーツ都市という知名度
- スポーツ都市宣言の効果は出ているか
- 「藤沢＝夏のスポーツ」だから冬のスポーツを広めたい
- チラシやポスターなどで人々の目に
- 留まりやすくする

世代間交流の充実

- 年代が偏らずみんなができるスポーツ
- 幅広い年代の方ができるスポーツの周知
- 世代を超えたスポーツが少ない
- (ニュースポーツ)
- スポーツの多様性(年代性別障害等の
- 枠組みを超えた取り組み)

2. 参加者からの意見

地域スポーツの課題

- 地域スポーツの動員が大変
- スポーツを通じた地域の交流が少ない
- 違うスポーツ同士の交流や1つのスポーツのなかでの交流
- 勝敗にこだわりたい人とスポーツを楽しみたい人を同じ空間にすること
- スポーツをする人しない人の共生
- スポーツをする人と近隣住民との関わり方(マナー)

交通網の脆弱

- 施設、練習場所までの移動
- 利便性がない

その他の課題

- 駐車場料金が安い
- プロ野球チームを誘致できない
- HPに写真がなく会場を選ぶことが難しい
- お金などの家族の負担
- 市民参加のスポーツの企画が固定、マンネリ化
- まちづくり賑わいが見られない
- プロスポーツができて観戦しやすい時間の工夫
- 高齢者健康づくり体操？
- アスリート輩出が少ない
- 東京オリンピック後のスポーツに対する関心の低下
- スポーツを行う企画等の認知度の低さ
- 藤沢市がどんなスポーツをやっているのか分からない(市民マラソンぐらいしか知らない)
- スポーツに力を入れていることを知らない
- スラムダンクの聖地をいかせてない

2. 参加者からの意見

私たちは14項目の中から、、、

①学校教育の不足

②物理的空間の不備

③ねんりんピックという存在

この3つに絞って提言させていただきます

私たちの提言

～私たちの提言～

①学校教育の不足

◎指導者不足の改善

特に学校の部活動における指導者

- 外部コーチを雇う
- スポーツ系の大学に通っている人をボランティアとして雇う



～私たちの提言～

例えば

藤沢市内のスポーツ系大学の大学生をボランティアとして雇う



神奈川県内 → 湘南地区 → 藤沢市内

と範囲を縮小して、募集をしていく



～私たちの提言～

大学生にボランティアをやってもらう場合、、、



インターンシップとして参加することも可能

(埼玉県参照)

埼玉県では、令和4年度埼玉県運動部活動インターンシップ
が行われている



～私たちの提言～

毎年実施している指導者講習会の周知を
より充実させて、参加人数を増やす

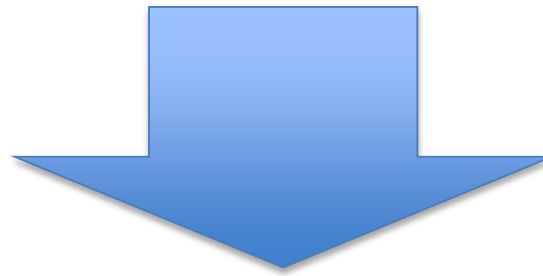


①  や  のSNSで周知！

② 指導者の年齢を考慮し回覧板でチラシの配布も！

～私たちの提言～

指導者不足が改善されると



- ①生徒の競技成績向上
- ②スポーツが盛んになり、市が躍動する

～私たちの提言～

②物理的空間の不備

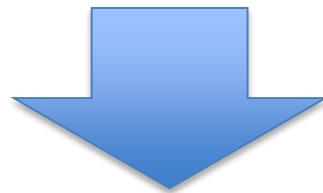
◎スポーツを行う場所の確保

- 市内の小中学校のグラウンドや体育館の解放
- 公園の整備



～私たちの提言～

市内の小中学校のグラウンドや体育館の解放

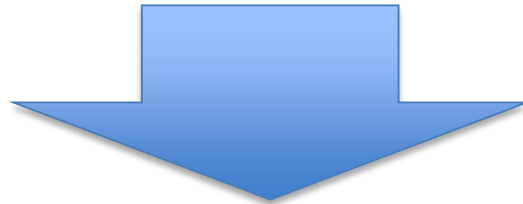


平日の放課後や土日の空いている時間は
開放する

御所見中学校、長後中学校、明治小学校の3か所しか開放していない
(令和元年度現在)

～私たちの提言～

学校を開放するには**安全面**が不安である



- ボランティア障害保険**500円**で加入できる(北上市参照)。
- 体育館や図書館などの開放エリアと、校舎エリアについては、間にシャッターが設置され、開放時においては、校舎側へ行けないように工夫されている(調布市参照)。
- 券売機を設置して、利用者の把握をする(調布市参照)。

～私たちの提言～

- 公園は、**スポーツしやすい空間**に！
- 地面の雑草などは定期的に刈る
- 高いネットを立てる
公園のネットを立てる費用はおよそ50万円

～私たちの提言～

③ねんりんピックという存在

◎ねんりんピックの認知度向上

- 市役所はローカルテレビと連携してねんりんピックを放送する
- 回覧板でのチラシにリンクやQRコードを貼る

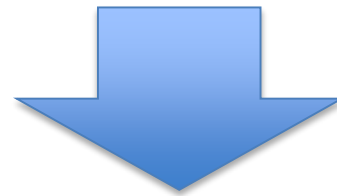


～私たちの提言～

- 駅前での横断幕やポスターがあるが、浸透していない
- YouTube配信もある



完全なるプロモーション不足



身近な広報といえ**ばテレビ**！

～私たちの提言～

テレビの視聴時間は
ネットを利用している時間と
ほとんど同じの**平均160分**ほど

～私たちの提言～

その中で、高齢者とテレビの関連について見ていく



テレビの1日の視聴時間

60代は男性が **4時間 55分**，女性が **4時間 47分**

70代では男性が **6時間**，女性が **5時間 31分**



テレビに対する不満度

自分の世代向け番組が少ないのが **61%**

～私たちの提言～

ここからテレビ放送されると、

60歳以上で開催されるねんりんピック



自分世代向けの番組 + テレビ視聴時間も確保



ねんりんピックを見る人が増える！



～私たちの提言～

もし、

ねんりんピックが
ローカルテレビで放送されることになったら、
藤沢市の大学生や高校生が
リポーターとして、実況するとより良い！



ご清聴ありがとうございました！